



# 日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.20

---

## 目 次

- 故 神谷 齊先生を偲んで 庵原 俊昭……………2
1. 新年度を迎えてのご挨拶 理事長 倉根 一郎……………3
2. ワクチン関連トピックス  
「ワクチン接種緊急促進事業」など……………3
3. 第15回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）  
第15回学術集会会長 中山 哲夫……………4
4. 会員会告
- 1) 2010年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録(2010年12月10日)……………5
- 2) 第14回日本ワクチン学会総会議事録(2010年12月11日)……………7
- 3) 2010年度第2回 Vaccine 誌編集委員会議事録(2010年12月10日)……………8

## § 故 神谷 齊先生を偲んで

日本ワクチン学会の創設者の一人であり、1999年（平成11年）に会長として第3回日本ワクチン学会学術集会を主催された国立病院機構三重病院名誉院長神谷 齊先生は、敗血症により平成23年2月22日御逝去されました。

神谷先生は1939年8月18日のお生まれです。1964年三重県立大学医学部を卒業し、1969年小児白血病の免疫療法に関する研究により三重県立大学から学位を授与されました。

神谷先生は、1974年から白血病児にワクチンを接種する研究を始められました。1974年当時、「免疫不全者に生ワクチンを接種することは禁忌」が常識でした。しかし、白血病児の免疫を研究されていた神谷先生は、白血病児の免疫状態を評価しながら接種すれば、安全にしかも効果的な免疫がつけられることを、麻疹ワクチンや水痘ワクチンを用いて証明されました。

同時に水痘の免疫を簡単に調べられる方法として、遅延型皮膚反応を用いた水痘皮内テスト（第一世代）を高橋先生（大阪大学微生物病研究所）と開発されました。この水痘皮内テストは、その後藤田保健衛生大学の浅野先生により改良され（第二世代）、現在市販されています。なお、神谷先生が提唱された免疫状態を評価しながら免疫不全者に生ワクチンを接種するという考えは、現在もHIV感染児や骨髄移植児へのワクチン接種に応用されています。

神谷先生は、ウイスター研究所におられた古川先生の紹介で、1980年フィラデルフィア小児病院感染症科・ウイスター研究所へ留学されました。当時フィラデルフィア小児病院感染症科のDivision Chiefは、風疹ワクチンRA27/3を開発したPlotkin教授であり、サイトメガロウイルスワクチン（Town株）、水痘ワクチン（Oka株）、ロタウイルスワクチン（現在RotaTeqとして結実）などの研究を行っていました。神谷先生は1年間という短い期間でしたが、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）感染細胞に対するADCCを見つけられ、ADCC抗体の測定方法を確立されました。神谷先生とPlotkin教授との親交は帰国後も続き、昨年も二人で国際ワクチン会議を東京で開催されました。

帰国後神谷先生は、白血病児だけではなく健康な子どもへのワクチン接種や臨床研究を行いながら、国際医療協力にもかかわられました。なかでもガーナ野口記念医学研究所プロジェクトは思い入れの深いプロジェクトでした。また、国立感染症研究所山崎先生等と行ったポリオ根絶活動も、西太平洋地域（WPR）のポリオ根絶宣言へと発展しました。

日本のワクチン行政に遺した神谷先生の大き

な足跡は、1994年に行った予防接種法の改正です。当時の予防接種制度が違憲であるという東京高裁の判決を受け、集団接種を個別接種にかえ、強制接種であった定期接種を勧奨接種にし、補償制度も手厚くしました。また「予防接種ガイドライン」と「予防接種と子どもの健康」を作成し、医療関係者だけではなく国民に対するワクチン啓発活動の大切さを指摘されました。

神谷先生は1988年9月から2005年3月までの17年間、現国立病院機構三重病院の院長を務められました。この間三重病院の療養所から一般病院への脱皮を図られました。現在三重病院は臨床研究部を有する一般病院として活動しています。神谷先生は名誉院長になられても臨床研究部の一員として活動されていました。

神谷先生は長い臨床活動、研究活動の中で一度大きな病魔に襲われています。それはC型肝炎ウイルスによる肝硬変でした。家族の強い勧めもあり肝移植を受けることを決断され、2001年12月肝移植を受けられました。

肝移植後、健康を回復されると研究活動は再び燃え上がり、インフルエンザ菌b型ワクチンや肺炎球菌結合型ワクチンの日本への導入、沈降インフルエンザワクチンH5N1や組織培養日本脳炎ワクチンの臨床開発、小児インフルエンザワクチン接種量の見直し研究など、次々と研究チームをリードされました。この頃三重県下の小児科医からなるワクチン治験チームが形成されました。

2006年、水痘ワクチンを開発された高橋先生の業績を讃えた高橋賞が日本ワクチン学会に創設され、神谷先生は第一回高橋賞に選考されました。選考理由は、「水痘ワクチンの臨床研究とワクチン行政に対する貢献」でした。

このように書いていきますと、神谷先生は仕事に生きた人と思われがちですが、神谷先生は根っからの中日ドラゴンズのファンであり、フィラデルフィアイーグルスのファンでもありました。また、神谷先生はクラシック音楽に造詣が深く、定年退職後は自宅の米倉を音楽ホールに変え、仲間と一緒に音楽を楽しんでおられました。

神谷先生は最後まで日本で開発された水痘ワクチンの定期接種化に情熱を持っておられました。遺された私達は、神谷先生が目指しておられたワクチン予防可能疾患、特に水痘ワクチンの定期接種化を目指して頑張ります。暖かく見守って下さい。

合掌

国立病院機構三重病院 院長 庵原俊昭

## § 新年度を迎えてのご挨拶

日本ワクチン学会理事長  
倉根 一郎

今回、東日本大震災において被災された多くの方々に謹んでお見舞い申し上げるとともに、犠牲者の方々に深く哀悼の意を表します。日本ワクチン学会員の皆様にも、ご自身、ご家族、ご親戚等が被災され、また現在でも困難な状況にある方々もおられると思います。被災された方々が一日も早く元の生活に戻れますよう心より祈念いたします。

平成 23 年の日本ワクチン学会は、前年 12 月の第 14 回日本ワクチン学会学術集会（岡部信彦会長）の大盛況の余韻をもって始まりました。学術集会にこれまでにない数の参加者があったことは、前年暮れ HPV, Hib, 肺炎球菌ワクチンの「ワクチン接種緊急促進事業」のニュースも影響したかもしれませんが、それ以上に日本ワクチン学会がこれまで以上に多くの研究者に認知され、大きな期待がかけられていることを如実に示していると思います。第 15 回学術集会は中山哲夫会長の下、本年 12 月に東京で開催されますが、さらに大きな成功が期待されます。

順調に平成 23 年をスタートした日本ワクチン学会でしたが、2 月には神谷齊先生のご逝去と

いう大変悲しいニュースがありました。本学会の創設者のお一人でもあった先生のご逝去は、学会にとっては本当に大きな損失でありました。学会員一同、学会を一層発展させることが先生へのご恩返しと思います。

さて、現在日本においてワクチンを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。多くの面での国際化が叫ばれています。このような状況の下、日本ワクチン学会では平成 24 年 6th Vaccine Global Congress を清野宏会長の下、第 16 回学術集会と共催することに決定しています。日本におけるワクチンのグローバル化を考えると、この国際学会の開催は日本ワクチン学会のみでなく日本にとって大きな意義を有すると思います。就任時も述べましたが、日本ワクチン学会は基礎、臨床、疫学、製造、品質管理等、多種の分野の研究者が分野を越えて一堂に会するユニークな学会です。基盤は国内にあるとしても、今後は国際的にも認知される学会へと発展することが求められます。平成 23 年が国際化へ向けての大きな飛躍の年になるよう学会員の皆様と進みたいと思います。

## § ワクチン関連トピックス

### 「ワクチン接種緊急促進事業」など

(社)細菌製剤協会 伏見 環

最近のワクチン及び同産業をめぐるトピックスを御紹介させていただきます。

#### 1. 「ワクチン接種緊急促進事業」

厚生労働省の厚生科学審議会予防接種部会では、平成 21 年年末に設置されて以降、新たな公的予防接種の対象とすべき疾病・ワクチンの検討も含め予防接種制度全般の検討を行っているが、22 年 10 月 6 日に「Hib、肺炎球菌、HPV ワクチンは、予防接種法上の定期接種に位置づける方向で急ぎ検討すべきである。」とする意見書をまとめた。

この意見等をうけて、22 年 11 月 26 日、厚生労働省は「ワクチン接種緊急促進事業」を開始した。これは、同日成立した補正予算約 1,085 億円の「子宮頸がん等ワクチン接種促進理事特例交付金」による事業で、① HPV ワクチン、② インフルエンザ菌 b 型 (Hib) ワクチン、③ 小児肺

炎球菌ワクチンの 3 種を、①については原則中学 1 年生から高校 1 年生の女子への接種、②③については 2 ヶ月齢以上 5 歳未満の乳幼児への接種を、24 年 3 月までの間時限的に実施するものである。接種に要する費用は、国と事業実施主体の市町村が 1/2 ずつ負担することとされており公費カバー率 90%となるが、被接種者に個人負担を求めない制度運用を行う市町村もある。22 年末の調査では、全国の市町村の過半数が 22 年度内の事業実施を予定している。なお、本接種事業は予防接種法に基づくものではなく同法の健康被害救済の対象とはならないことから、市町村は保険加入することされている。

本年 3 月 2 日から 4 日にかけて、Hib ワクチン及び小児肺炎球菌ワクチンの同時接種を含むワクチン同時接種後の死亡例が 4 例報告された。このため、厚生労働省は 3 月 4 日、ワクチン接種と死亡との因果関係の評価を実施するまでの

間、念のためこの2種のワクチンの接種を見合わせることにした。その後報告されたものも含め7例の死亡例（うち5例が今回の接種事業実施自治体で事業実施後に発生した症例）について、3月24日に安全性評価の検討会の評価結果が示されたが、Hib ワクチン及び小児肺炎球菌ワクチンの接種と死亡例との間に「直接的な明確な死亡との因果関係は認められないと考えられる」と結論された。そのうえで、これら二種のワクチンについては、同時接種により短期間に効率的に予防効果を獲得できるメリットが期待されると同時に、それぞれ単独接種が可能であることを示したうえで、同時接種を行う場合には、その必要性を医師が判断し、保護者の同意を得て実施することとされた。これらの評価結果をふまえ、本事業の実施要領、ワクチンの添付文書に所要の変更を行い、4月1日にHib ワクチン、小児肺炎球菌ワクチンの接種が再開されることとなった。

## 2. 国家検定での SLP の提出

ワクチンの国家検定に際しては、製造販売業者は自家試験記録の提出を求められてきたが、厚生労働省においては、“規制当局は Lot Release の際に製造記録の確認を重視すべき”とする

WHO の方針等を考慮し、自家試験記録に代わり当該申請にかかるロットについて作成された製造及び試験の記録等の要約（いわゆる SLP; Summary Lot Protocol）の提出を求めるための薬事法施行規則の改正作業を進めている。（23年5月公布、24年10月施行予定）昨秋以来、ワクチン製造販売業各社は、国立感染症研究所や厚生労働省との意見交換・協議を進めているところである。

## 3. 東日本大震災の影響

最後になりましたが、3月11日発生の東日本大震災の被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

この地震後の東京電力管内での計画停電や今後想定される節電対策が、対象地域内のワクチン製造施設に深刻な影響を与えることが懸念されている。ワクチン製造施設では、大部分の電力を定常的に無菌室や保冷庫の空調、温度管理に使用しており、今回の計画停電により一部のワクチンの生産が一時中断を余儀なくされた。関係企業においては、節電をおこないつつワクチンの安定的な供給のため努力をしまいたいと考えている。

---

# § 第 15 回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第 2 報）

第 15 回日本ワクチン学会学術集會會長  
北里生命科学研究所 ウイルス感染制御  
中山哲夫

ワクチン学会の設立に際し御尽力され、私たちをご指導いただきました神谷 齊先生のご逝去に際し追悼の意を表します。ご遺志に沿いワクチン学の発展に寄与することが責務と考えます。

2007 年の成人麻疹、2007/08 年の大学キャンパスでの百日咳の流行、2009/10 年の H1N1 パンデミックと感染症は社会をゆるがしワクチンに対する社会的要求が強くなりました。予防医学の重要性がやっと思直され、新聞で、テレビで、学会でワクチンギャップについて語られ、積極的なワクチン対策をとってこなかった行政責任、アメリカにあるようなワクチンについて政府に助言を行う専門委員会（Advisory Committee on Immunization Practices: ACIP）の設立、ワクチンメーカーは弱小で開発能力がない、ワクチンギャップ等々の問題点が語られています。

社会の多くの人たちは、義務教育、高校・大学の授業の中で自分の身体のこと、健康であること、感染症・病気のこと、ワクチンの果たしてきた役割などはほとんど教わることなく卒業しています。ワクチンギャップとかの話になると最終的には「教育と啓発」が課題であるという結論に至ります。欧米においてはワクチンにより感染症から守られていることが小さい時から教えられており、そして周りに感染を広げないワクチン接種の社会的意義が染み付いているようにおもわれます。ワクチンギャップに関してワクチンの品目は揃ってきて、ワクチンに対する考え方も変わりつつありますが、ワクチンギャップの次にはエデュケーションギャップがきます。医学教育、卒業教育、一般の学校での保健教育、一般の人たちへの啓発などこれからのエデュケーションギャップに対処する必要があります。

「感染症・ワクチン：教育と啓発」を第 15 回ワクチン学会のテーマとして、教育・啓発のための具

体的なアプローチについて考えてみたいと思います。学会のテーマにかかわらず多くの一般演題を募集いたします。

よろしく願いいたします。

会 期：平成 23 年 12 月 10 日、11 日（土、日）

会 場：日本教育会館 一ツ橋ホール（101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）

テーマ：「感染症・ワクチン：教育と啓発 マジでしないと」

＜お問い合わせ＞

事務局：第 15 回日本ワクチン学会学術集会事務局

渡邊峰雄（わたなべ みねお）

北里大学 大学院感染制御科学府

ワクチン学専攻 免疫機能制御学研究室

108-8641 東京都港区白金 5-9-1

TEL 03-5791-6122

FAX 03-5791-6122

EMAIL watanam@lisci.kitasato-u.ac.jp

【第 15 回日本ワクチン学会学術集会ホームページ】

URL: <http://www.procomu.jp/jsvac2011/>

---

## § 2010 年度第 2 回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2010 年 12 月 10 日（金）16：00～18：00

場 所：九段会館 2F 錦鶏の間

出席者：倉根一郎（理事長）、石川豊数、庵原俊昭、岡田賢司、岡部信彦、奥野良信、尾崎隆男、城野洋一郎、清野 宏、西條政幸、鹿野真弓、高橋元秀、中山哲夫 各理事  
山西弘一 監事 古田真塩（記録（株）春恒社）

欠席者：廣田良夫、宮崎千明 各理事 荒川宜親 監事

報告事項

### 1. 前回議事録の確認【資料：1】

倉根一郎理事長から 2010 年度第 1 回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

### 2. 一般経過報告【資料：2】

倉根一郎理事長から 2010 年 10 月 31 日現在の会員数の現状を含む一般経過報告がなされた。

### 3. 高橋賞選考委員会報告【資料：3】

1) 倉根一郎理事長から高橋賞選考に関して応募が 2 件あり、選考委員会での審議の結果、1 件の応募については今回受賞を見送り、1 件（富樫武弘先生）のみ採択されたことが報告された。総会終了後、高橋賞受賞式と受賞講演が行われる。

2) 倉根理事長から、功績のある会員に対し積極的に授賞を行うため、年度の申請期間終了後であっても、選考委員会開催までの期間に受賞に値すると思われる会員が推挙された場合、選考委員会の承諾のもとに申請受付を可能とするよう、内規に下記文言を追加することが提示され、承認された。

高橋賞選考委員会内規  
(応募)

10. 応募期間終了後、選考委員会開催までの期間であれば、選考委員会の承諾を得て追加応募することを妨げない。

4. 平成 22 年度一般会計中間報告【資料：4】  
石川豊数財務担当理事から平成 22 年度一般会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2010 年 10 月 31 日現在）がなされた。
5. 平成 22 年度高橋記念基金会計中間報告【資料：5】  
石川豊数財務担当理事から平成 22 年度高橋記念基金会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2010 年 10 月 31 日現在）がなされた。
6. 第 14 回日本ワクチン学会学術集会報告  
岡部信彦会長から挨拶と第 14 回日本ワクチン学会学術集会会期中の企画・プログラムの紹介がなされた。
7. 第 15 回日本ワクチン学会学術集会報告  
中山哲夫次期会長から準備状況の報告がなされた。  
会期：2011 年 12 月 10 日（土）～ 11 日（日） 会場：日本教育会館
8. Vaccine 誌編集委員会報告【資料：8】  
西條政幸担当理事（委員長）から 2010 年度第 1 回および第 2 回 Vaccine 誌編集委員会開催報告、Vaccine 誌への掲載状況と今後の掲載予定、一部の委員の交代予定について報告された。
9. ニュースレター報告【資料：9】  
高橋元秀担当理事から Vol.19 の目次（案）と進捗状況について報告がなされた。
10. 広報委員会報告【資料：10】
  - 1) 清野 宏担当理事（委員長）からホームページ更新と問合せ対応の報告がなされた。
  - 2) 清野理事から学会ホームページの英文ページ作成が提案され、次回理事会に具体案と見積書を提出し検討することとなった。
11. ワクチン推進ワーキンググループ活動報告  
中山哲夫理事から、2009 年度をもって解析を終了した沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン（DTaP）の追加摂取臨床試験については 8 月にまとめが終了し、現在はその還元方法と次の課題を検討中であるとの報告がなされた。
12. 日本のワクチン歴史書 出版事業の経過報告【資料：12】  
高橋元秀理事から、本の題名を「日本のワクチン 60 周年史」から「日本のワクチン—開発と品質管理の歴史的検証—」と変更したこと、第 1 回編集委員会の内容、その後の進捗状況が報告された。
13. 予防接種推進専門協議会活動報告【資料：13】
  - 1) 西條政幸理事から、倉田 毅先生から委員を引き継いだこと、本年 11 月 17 日に予防接種推進専門協議会から厚生労働大臣に緊急声明を提出したことが報告された。いずれもメール理事会で承認済みである。
  - 2) 倉根一郎理事長から、各参加団体宛として予防接種推進協議会から協力金（10 万円／年）の支払い依頼を受けたとの報告がなされ、委員交通費の支払いに加え、協力金を支払うことが承認された。
14. その他（会則変更について、確認）【資料：14】  
前回理事会で承認された会則第 4 条への追記および付則の追加について、第 14 回総会に諮ることを確認した。

## 審議事項

### 1. 平成 23 年度一般会計予算案【資料：15】

石川豊数財務担当理事から平成 23 年度一般会計予算案について説明がなされ、承認された。予防接種推進専門協議会協力金には予備費をあてることとした。

### 2. 平成 23 年度高橋記念基金会計予算案【資料：16】

石川豊数財務担当理事から平成 23 年度高橋記念基金会計予算案について説明がなされ、承認された。

### 3. Vaccine Global Congress について

清野 宏担当理事から、2010 年 10 月 3～5 日にオーストリアで開催された Vaccine 4th Global Congress で同 6th Congress (2012 年) の開催地が東京に決定したことが報告された。前回理事会の決定を受け、第 16 回日本ワクチン学会学術集会を Vaccine 6th Global Congress と共同開催することとし、形態等の詳細は委員会を組織し検討することとした。

### 4. 第 16 回日本ワクチン学会学術集会について

倉根一郎理事長から、Vaccine Global Congress との共同開催という特殊性を踏まえ、第 16 回学術集会会長として清野 宏理事(東京大学医科学研究所)を推挙したいとの提案があり異議なく承認され、理事会から清野理事を第 16 回会長として第 14 回総会に諮ることとなった。

### 5. その他

- 1) 国際化学療法学会から 2013 年 6 月に横浜で開催される第 28 回国際化学療法学会への協力依頼があり、検討した結果、共同プログラム等で参加することとした。
- 2) 日本学術会議から日本学術会議会員および連携会員の候補者に関する情報提供依頼があり、理事会メンバーリストを用いて各理事が適当と思われる会員を推挙し、その中から倉根理事長が人選して日本学術会議に回答することとした。
- 3) 山西弘一監事から、高橋賞制度の活性化を図るため応募や選考方法など全体のシステムの見直しの提案があり、次年度理事会で検討することとした。

以上

平成 22 年 12 月 10 日 (金)

日本ワクチン学会

理事長 倉根一郎

---

## § 第 14 回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成 22 年 12 月 11 日 (土) 13:30～14:00

場 所：九段会館【大ホール】

総会議長：第 14 回日本ワクチン学会学術集会会長 岡部信彦

### 1. 報告事項

#### 1) 一般経過報告

倉根一郎理事長から、平成 22 年度活動状況・会員数現状報告の一般経過報告がなされた。

#### 2) 日本ワクチン学会高橋賞受賞について

倉根一郎理事長から、高橋賞選考委員会で審議の結果、富樫武弘先生に高橋賞が授与されることが決定し、この総会終了後、受賞式を執り行うことの報告があった。

### 2. 議 事

#### 1) 会則の改定(理事会成立の定足数に関する規定の追加 他)

倉根一郎理事長から、会則 4 条への理事会成立の定足数に関する規定の追加、理事に欠員が生

じた場合の補充に関する付則についての説明・報告がなされ、承認された。

2) 平成 21 年度決算および平成 21 年度監査報告について

石川豊数理事から平成 21 年度決算報告がなされ、引き続き山西弘一監事から平成 21 年度会計監査報告があり、平成 21 年度の決算案が承認された。また、決算報告に先駆け、石川豊数理事から第 13 回総会で提示した平成 22 年度予算案に記載された平成 21 年予算の雑収入額が誤っていたとして、訂正・報告がなされた。

3) 平成 23 年度予算案について

石川豊数理事から平成 23 年度予算案について報告があり、承認された。

4) その他

特になし

3. 第 16 回学術集會会長の推挙

倉根一郎理事長から第 16 回学術集會会長として、東京大学医科学研究所 清野 宏先生が推挙された。あわせて、同年度に東京で開催される Vaccine 6th Global Congress と第 16 回学術集會を共同開催することが提示され、いずれも承認された。引き続き清野 宏先生から挨拶がなされた。

4. 次期会長挨拶

第 15 回日本ワクチン学会学術集會 中山哲夫次期会長より挨拶がなされた。

5. 第 14 回学術集會会長挨拶

第 14 回日本ワクチン学会学術集會 岡部信彦会長より挨拶がなされた。

6. 総会終了後、高橋賞受賞式が執り行われ、引き続き受賞講演がなされた。

第 5 回日本ワクチン学会高橋賞受賞者・受賞研究題名

富樫 武弘 先生（札幌市立大学看護学部特任教授）

受賞研究題名「ワクチン接種で予防可能な小児期感染症の診断・治療・予防に関する研究」

以上

平成 22 年 12 月 11 日  
第 14 回日本ワクチン学会学術集會  
会長 岡部信彦

---

## § 2010 年度第 2 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日 時：2010 年 12 月 10 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：九段会館 2 階 鷗・千鳥の間

出席者：【委員長】西條政幸【委員】奥野良信、熊谷卓司、谷口清州、多屋馨子、中山哲夫

【出版社】竹田政子、中島瑞穂 エルゼビア・ジャパン（株）

【記録】古田真塩（（株）春恒社）

欠席者：【委員】浅野喜造、荒川宜親、神谷 元、清野 宏、田代真人

【オブザーバー】倉根一郎

1. 前回議事録の確認【資料：1】

西條政幸委員長から前回議事録について報告がなされ、承認された。

2. Vaccine 誌への掲載原稿の進捗状況【資料：2】

以下の原稿の進捗状況の報告がなされた。

1) 2009 年度第 1 回委員会以降に掲載された原稿

第 3 回高橋賞（千葉靖男先生）：Vol.28 Issue38



第4回高橋賞（田村愼一先生）：Vol.28 Issue38

第13回学術集会シンポジウム1（瀬谷先生、改正先生、本田先生、樗木先生、Dr. Brown）  
：Vol.28 Issue50

第13回学術集会シンポジウム3（有川先生）：Vol.28 Issue50

第14回学術集会学術集会開催案内：Vol.28 Issue37

- 2) 今後掲載予定のエルゼビア社入稿済み原稿  
医事新報社の原稿英訳（馬場先生）：オンライン掲載済

### 3. 今後の掲載予定について

- 1) 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：神谷先生） → 投稿を依頼済み。
- 2) 第2回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：清野先生） → 投稿を依頼済み。
- 3) 第5回高橋賞受賞者の富樫先生に受賞研究についての総説の執筆依頼を行う。  
\*上記、高橋賞受賞研究についての総説3編は、2011年度中の掲載を目指す。
- 4) 第14回学術集会シンポジウム、特別講演等
  - ・ワークショップ1「体表面バリアにおける感染とワクチン開発戦略 - I：インフルエンザの予防に向けて」およびワークショップ2「同 - II：新規ワクチン開発に向けて」については、西條委員長と清野委員が各座長に相談の上、執筆者を選出し依頼を行うこととした。
  - ・シンポジウム1「ワクチン先進国に向けて」については、ドメスティックなテーマであるため見送ることとした。
  - ・招請講演1「Advisory Committee on Immunization Practices」については、執筆依頼するか否か、講演を聴いた後に再度検討することとした。
  - ・招請講演2「感染症対策 - ワクチンにもふれて」は演者の尾身先生に総説の執筆依頼を行う。
  - ・特別講演「WPROにおけるポリオ根絶10年と現在の問題点」は演者の宮村先生に総説の執筆依頼を行う。
  - ・シンポジウム2「麻疹 Elimination!!」については、西條委員長と多屋委員が演者から執筆者を選出し、執筆形態を検討の上依頼することとした。
  - ・第15回学術集会アナウンスは中山委員（会長）に執筆を依頼した。

### 4. 今後の執筆依頼について

- 1) 日本脳炎ワクチンに関する総説（日本における日本脳炎ワクチン勧奨接種の中止、細胞培養日本脳炎ワクチン導入の経緯について） → 西條委員長が著者選定中である。
- 2) 第16回学術集会アナウンスは早い時期に掲載できるよう、会長が決定次第依頼することとした。

### 5. 掲載可能ページの有効利用について【資料：5】

人材育成を視野に入れ、学術集会の一般演題から優秀演題を選考し、演題の分野に関する総説の執筆を依頼してはとの提案があり、第15回学術集会からの導入を目指し検討することとした。

### 6. 編集委員の交代について

浅野委員から辞任の依頼があり了承された。また、多忙により委員会活動に参加することが困難となっている委員がいる現状を受け、今後、一部の委員の交代を検討することとした。浅野委員の後任として大石和徳先生（臨床応用系：阪大微研）に就任依頼を行う。また、辞任を希望する委員があった場合の後任として、小西英二先生（基礎研究系：神戸大学）、中野貴司先生（臨床応用系：川崎医科大学）、石和田稔彦先生（臨床応用系：千葉大学）があげられた。

以上

平成22年（2010年）12月10日（金）  
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会  
（担当理事）委員長 西條政幸

---

---

日本ワクチン学会ニュースレター 第 20 号

2011 年 5 月 20 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局  
〒 162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1 国立感染症研究所ウイルス第一部  
日本ワクチン学会理事長 倉根 一郎

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号  
新宿ラムダックスビル 10 階  
(株) 春恒社 学会事業部内  
日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : [jsvac@shunkosha.com](mailto:jsvac@shunkosha.com)

---

---